

製品名: サイトケラチン 8 (リン酸化 Ser73) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04533

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT8
別名	KRT8; CYK8; Keratin; type II cytoskeletal 8; Cytokeratin-8; CK-8; Keratin-8; K8; Type-II keratin Kb8
遺伝子 ID	3856.0
SwissProt ID	P05787
免疫原	抗血清は、ヒトケラチン 8 の Ser73 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

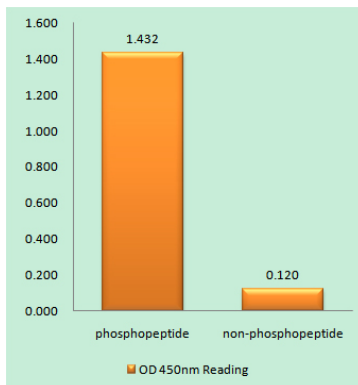
背景

ケラチン 8 (KRT8) ホモサピエンス この遺伝子は、12番染色体長腕にクラスター化したタイプIIケラチンファミリーのメンバーです。タイプIおよびタイプIIケラチンはヘテロ重合し、上皮細胞の細胞質内で中間径フィラメントを形成します。この遺伝子産物は通常、ケラチン18と二量体を形成し、単層上皮細胞内で中間径フィラメントを形成します。このタンパク質は細胞構造の完全性を維持する役割を果たすほか、シグナル伝達および細胞分化にも関与しています。この遺伝子の変異は、原因不明の肝硬変を引き起こします。この遺伝子には、選択的スプライシングによる転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq提供、2012年1月]、疾患:KRT8の欠陥は、原因不明の肝硬変[MIM:215600]の原因です。、機能:KRT19とともに、横紋筋のコスタメアで収縮装置をジストロフィンにリンクするのに役立ちます。、その他:細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I (酸性、40~55 kDa) とII (中性から塩基性、56~70 kDa) の2種類があります。、PTM:複数の部位でO-グリコシル化されており、グリカンは単一のN-アセチルグルコサミン残基で構成されています。、PTM:セリン残基のリン酸化は、EGF刺激および有糸分裂中に促進されます。 Ser-74のリン酸化は、ケラチンフィラメントの再構成において重要な役割を果たします。、類似性: 中間径フィラメントファミリーに属します。、サブユニット: 2つのI型ケラチンと2つのII型ケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン-8はケラチン-18と会合します。KRT20と会合します。HCVコアタンパク質およびPNNと相互作用します。KRT19と会合すると、DMDと相互作用します。TCHPと相互作用します。、組織特異性: ジストロフィンおよびスペクトリンを含む構造において、筋形質膜のコスタメアに蓄積する筋線維に認められます。口腔内の歯肉粘膜および硬口蓋に発現します。、

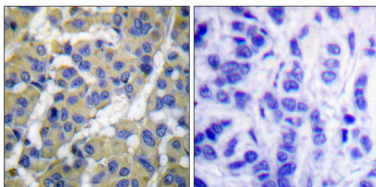
研究分野

シグナル伝達

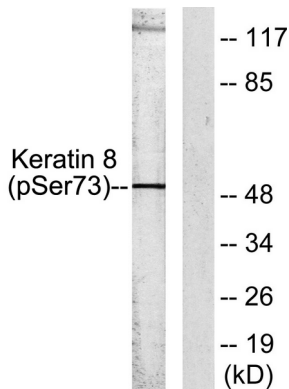
画像データ



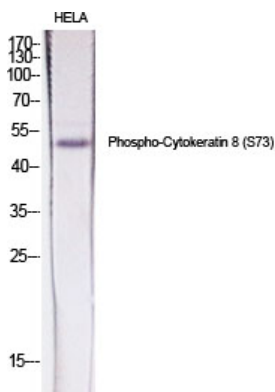
ケラチン 8 (リン酸化Ser73) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化ELISA)



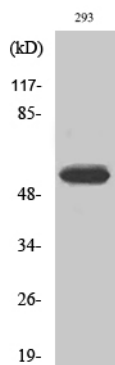
ケラチン 8 (リン酸化Ser73) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



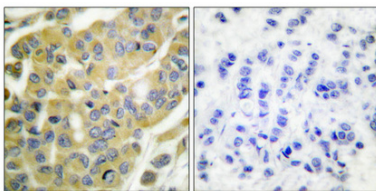
エトポシド 25 μ M 60%処理した 293 細胞ライセートのケラチン 8 (リン酸化 Ser73) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化サイトケラチン 8 (S73) ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して、様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



リン酸化サイトケラチン 8 (S73) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4 $^{\circ}$ C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。